

ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所 シンポジウム

「宗教の衝突、和解と融合：その歴史的・美術史的考察
—スペイン、ラテンアメリカ、日本の各視座から—」

古来、人々はつねに異なる民族や宗教のあいだで衝突と抗争を繰り返し、それを乗り越えて和解と融合を試みながらも、再びまた、同じ道を愚かにも辿ってきているようです。

いまさらという感じもいたしますが、あらためてこのテーマをシンポジウムにおいて取り上げ、そうした対立や葛藤がどのようなプロセスを経て克服され、さらに新たな変容を遂げ得たのか、いくつかの事例を題材にして歴史学と美術史の双方から再考する場を提供できればと考えて企画いたしました。共通軸はカトリック信仰をめぐる衝突から和解へ、ということでしょうか。

奮ってご参集くださり、会場からも様々なご意見を頂戴できますことを願っています。

日時 2014 年 9 月 27 日（土）14:00 より

場所 早稲田大学文学学術院 39 号館 2 階 2219 教室（美術史実習室）

主催 ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所

共催 総合人文科学研究センター・研究部門「ヨーロッパ基層文化の学際的研究」
高等研究所「比較文明史セミナー」
スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会

プログラム（14:00～18:00）

14:00～

開会の辞 甚野尚志（早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所 所長）

趣旨説明 大高保二郎（早稲田大学）「衝突と融合による美術的な変貌」

14:30～

研究報告 1 関哲行（流通経済大学）「中近世スペインにおける三つの一神教の対立と共存」

研究報告 2 岡田裕成（大阪大学）「聖母、征服者、先住民首長—アンデスにおける聖像受容の政治学」

研究報告 3 児嶋由枝（上智大学）「西欧カトリック改革美術とキリシタン美術—聖像の受容と変容をめぐって」

討論及び総括

司会進行 益田朋幸（早稲田大学）